



【特集1】

アウトリーチワークショップ 福井県警察本部編

5月27日(月) 警察学校にて 備付計器を使えるものに

【2年前から続けています】

2022年度より、NEATRは、福井県下約100か所に備付けされた放射線測定器を使えるものにして、アウトリーチワークショップを実施しています。2023年9月には高浜町役場の20名の職員の皆様と実施しました。なお、この活動は中部電力原子力シニアの皆様にもご支援いただいています。

2024年度は、まず福井県警察本部で行いました。このための準備は2023年8月に始まり、4回の打合せを経て、翌年5月27日(月)に福井県警察学校で、福井県下各警察署の災害警備担当者9名の方と「原子力災害装備資機材取扱講習」をワークショップ形式で行いました。

【発端はキャラバン活動です】

2023年の7月から8月にかけて、市町、警察、消防、病院などの県下の機関に、パンフレットを持ってキャラバンを行いました。その結果、高浜町にはご賛同頂き、また、おおい町には関心を示していただきました。

警察につきましては、12月に入ってから、県警からお問合せをいただき、その回答を実体験するために、ワークショップの実施を提案しました。

【県警のニーズとは】

第1回(2023年12月4日)は、ワネッツ敦賀事務所に県警の方が訪問され、「原子力災害時の状況がどのようなものか等」のご質問いただきました。

第2回(2024年3月18日)は、頂いた原子力災害とはどんな状況かというご質問に回答する形で、その回答をワークショップで実施したいと申し入れました。

第2回まで時間がかかったのは、個人線量計の警報音の入手に手間取ったためです。



【まずは備付計器の確認を行いました】

第3回(2024年4月10日)は、備付計器の確認に県警へ行きました。

個人線量計と表面汚染測定器(α型)がありました。個人線量計は普通県下に備えてあるものより測定範囲が高く、手持ちの天然線源では指示がでないことがわかりました。

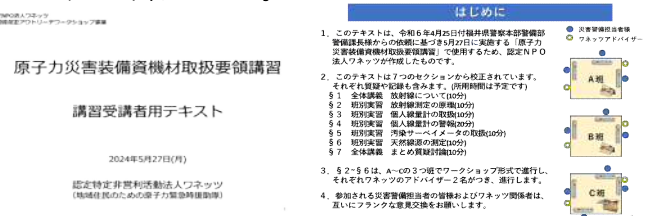


【実施要請文書を受け取りました】

現物確認の結果、備えてある個人線量計は、手持ちの天然線源ではワークショップ時間中に指示が出ないことがわかり、個人線量計の警報音による聞き取りを中心に進めることとしました。

2024年4月25日、福井県警察本部警備部警備課長様より、「災害警備専科における講義について(依頼)」の文書をいただき、実施計画や配布テキストの作成に入りました。ワネッツ参加人数は、受講者数が10名であり3班作ることにして6名派遣することとしました。

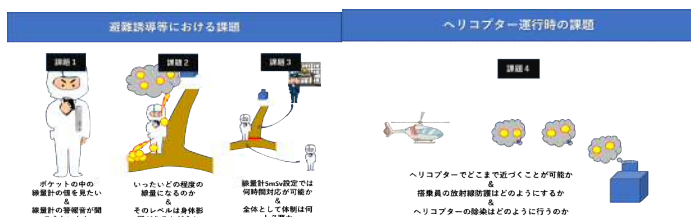
また、表面汚染測定器(α型)が1台しかないため、それぞれで天然線源の測定を行えるよう、GM管2台をレンタル調達しました。また、事前に個人線量計警報音を入手し、ICレコーダ3台に録音しました。



【ワークショップの実施】

5月27日(月)の12時50分から14時10分の80分間、福井県警察学校第5教場でワークショップを実施しました。会場はスクールデスクであり机の配置には工夫が必要でした。

ワークショップの開始は「起立・礼」で始まり、警備課の開講あいさつ、引き続き肥田隊長より、NEATRの説明お





木村拓哉さん主演の「教場」というテレビドラマがあり、そこでワークショップするとのこと、最初はビビっていましたが、県警の皆様とフランクなお話ことができました。ただ廊下でお会いすると、直立礼でお礼を言われびっくりしました。

よびワークショップ趣旨説明を行いました。

その後、テキストにより放射線の説明を行いました。このテキストは放射線測定に特化するため、どこにもないものとなり、ワネッツ役員などで4回のTV会議を実施しました。



その後、3班に分かれて個人線量計の計測原理の説明や警報音の聞き取りなどを行い、さらに表面汚染測定器により天然線源の測定を行いました。



計器による放射線測定だけでなく、例えば「ミリよりナノが大きいと思っていた」など、双方ともフランクな会話も楽しめました。

これらのショップを終えたのち、何がわかったのかとかどんな時に測定器を使うのかを各班の代表者に発表していただきました。

【活動報告1】

311特別企画事業：隊員拡大月間の設定／実施

NEATR隊員数減少と高齢化のなか、組織の存亡をかけた挑戦を行うとして、毎年度3月11日近傍で行う特別企画事業としてNEATR隊員拡大月間を設定し、役員による勧誘、新聞折り込みによる募集を行いました。なお、当初予定していた事業所キャラバンは、延期することにしました。(現在、キャラバン実施時期は検討中です)

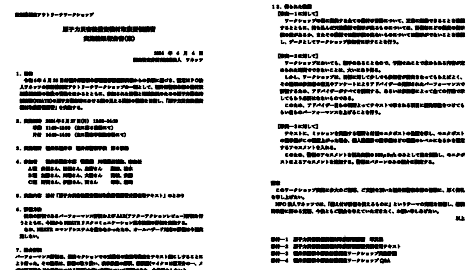
ワネッツ役員による勧誘は、任意の時期でのレターや面談を精力的に行った結果、6名(現時点で8名)の新規隊員となりました。新たにNEATR隊員となっていた皆さまに厚く御礼申し上げます。今年の秋には福井県原子力防災訓練が予定されています。皆様のご活躍を期待しています。

新聞折込は右記のチラシを新聞折り込みし、5名の方から資料請求がありました。資料を送った方からの加入申し込みはありませんでした。2023年度の活動状況を中心に資料を送ったのですが、その資料に記載された活動量が逆に敷居を高くしてしまいました。

所定時刻になり、全員演壇にならび「起立・礼」のもと、双方お礼を言って、ワークショップを終えました。



翌日、メールによりAAR(アフターアクションレビュー)を行い、実施報告書(案)を作成し、6月4日(火)福井県警察本部へ説明し、フランクなお話ができよかったなど、総合的な評価もいただきました。



これらの経過を経て、今後の活動の糧になる「教訓」として、①使う線量計についてすべて事前チェックしておく、②参加者の反応に応じてワークショップの予定項目に優先順位をつける、③実際のの状況下でモニタポスの活用方策を提言していく、の3つを得ることができました。

原子力職場を経験された皆様へ
地域と原子力に夢を、一緒に目指しませんか！



新聞折込チラシ

折込日 3月11日(月)

折込新聞 福井新聞

折込地域
敦賀市～高浜町
27,000枚

311原子力事故の最大の教訓、「起きるとして考える」
私たちは経験を活かし、地域と原子力の未来へ向かいます。

ご関心のある方、右記QR Lでお問い合わせ
ください。
関係資料をお送りいたします。



QRコードから資料請求
5名

地域住民のための原子力緊急時援助隊 (NEATR:ニカ)
運営主体 認定NPO法人 ワネッツ
小浜市四谷町9-22 Tel 0770-64-5929

【活動報告2】

第8回NEATR定期総会を開催

NEATRはNEATR規約により、年1回総会を開催しています。これまでは、311特別事業と組み合わせ、集合して行うことを念頭にして設定してきましたが、2023年度は隊員拡大月間を設定したため、テレビ会議方式の総会としました。

この総会は、隊員106名中、参加隊員9名、書面決議参加52名、欠席46名で開催しました。

地域住民のための原子力緊急時援助隊
(NEATR)

第8回定期総会 議事録



日時：2024年3月31日(日) 19時30分～21時00分
場所：在宅テレビ会議方式

議事次第

1. 定数確認、開会宣言
2. 動画「NEATR 7年の歩み」放映
3. NEATR隊長あいさつ
4. 審議事項
第1号議案 2023年度活動報告について(報告承認案)
第2号議案 オールハザード対応について(活動方針案)
第3号議案 緊急時コミュニケーションの展開について(活動方針案)
～質疑応答～
～採決～
5. 決意表明
6. 閉会

総会では、冒頭「NEATR 7年の歩み」を放映、隊長あいさつ、そして2023年活動報告ののち、「①オールハザード対応について」、「②緊急時コミュニケーションの展開について」の2つの議案を提案し、質疑を行いました。

質疑においては、コマンドシステムを最近使っていないがどうかとかオールハザード対応方針は得られた教訓を原子力災害に生かすという考え方かどうかという質問があり、2024年度はシステムを使った演習を行う、オールハザードは当面技術的な開発を行うという事務局回答を行い、最終挙手により①、②の活動方針は満場一致で可決決定しました。

【活動報告3】

ワネッツオピニオン

ワネッツでは会員の皆様のご意見を発表する場としてワネッツオピニオンを発行しています。

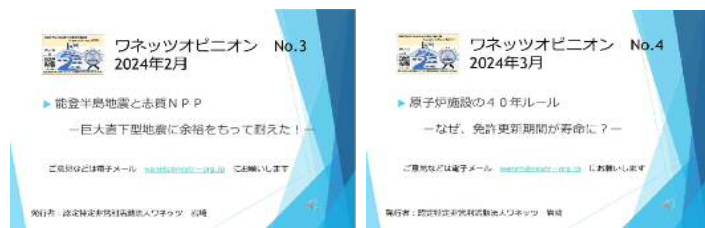
このオピニオンは、アウトリーチワークショップにおいて市町職員の皆様や警察・消防の皆様とフランクな会話をさせていただくための話題を準備するということで、ワネッツシニアアドバイザー(WSA)の方にお送りするものです。

2023年度は下記に示しますように、「No.3 能登半島地震と志賀NPP-巨大直下地震に余裕をもって耐えた」と「No.4 原子炉施設の40年ルール-なぜ免許更新期間が寿命に」の2件発行しました。

No.3は、米国地質調査所(USGS)のデータをもとに、本年1月1日の能登半島地震は、近年で世界最大規模の内陸地震であった、断層は発生していない、圧力派である津波も発生していないという意見です。

No.4は、もともと米国原子力エネルギー法で定められた40年というライセンス更新期間が、なぜか国内では原子炉施設の寿命と曲解されているという意見です。

これらは、ご寄付頂いた方への返礼としてお送りしています。



緊急時コミュニケーション特集

2019年にファクトフルネスという本が出版され、売れ筋の本にランキング・インしていた。

世界中の人々は思い込みによる大きな間違いに支配されており、それを、正確なデータで正しく見る習慣をつけようと訴える、スウェーデン医師が中心になって書いた本だ。

その思い込みに**恐怖本能**があるという。蛇や暴力、災害、人によっては高いところとか狭いところなどなど、それは自然の中で生きていくためには必須であるが、人類が進歩するに従いその本能は役立たなくなり、今や「ジャーナリストの雇用を支えているだけ」という。これは原子力や放射線の業界にとっても、至極名言であろう。日本ではジャーナリズムにのる政治家等も一緒だろう。

じゃあ恐怖本能に対して、どんな事実があるとその本は言っているのだろうか？ 私たちは恐ろしいというものに着目してしまうが、**恐怖と危険は違う**ことに気づくべきだ、危険に基づく恐怖本能から逃れるため

恐怖本能にはリスク計算

には、**リスクを計算してみる**ことが良いと提言している。

当たり前の提言であると思うのだから、多くの皆さんは、まず、リスクを計算するなんてできない、リスクは統計実績から確率として導きだすものだ、とか、リスクは将来のこと、そんな先のことどうなるかなんてわからない、現に金融機関はリスクに対して「自己責任で」としか言っていないではなか、と思われるだろう。

日本には「原因と対策」という言葉がある。過去の失敗の原因を取り払う対策とすれば問題ないという考え方だ。これをフロイト的原因論というが、世界的には過去の遺物となり、アドラー的目的論が世界の主流だ。

なぜ、世界の主流といえるのか？ それは目的をどのように定めようが自由なもの、その自由を標ぼうする国家が世界中ほとんどであることがその証拠だ。

国際的なリスクの定義は「目標に対する不確実性」となっている。この不確実性を数字で求めるためには、計算モデルが頭の中にある必要がある。

すなわち「**リスクを計算**」するためにはモデルが必要だ。



リスクは、ISO321000：リスクマネジメントに「目標に対する不確実性」と定義されており、目標達成にプラスもあればマイナスのものもあり、要はリスクは、有無ではなくどう判断し実行するかの決断するためのものです。

今後の活動予定

(NPO法人ワネッツ)

- 6/23 第3回(月例)役員会
- 7/上旬 第4回(月例)役員会、第2回理事会
- 7/下旬 ワネッツ臨時総会(定款変更)
- 7/下旬 定款認証申請
- 9/下旬 定款認証、認証登記

ワネッツ定款に記載した敦賀事務所の住所が変更となったため、定款の修正が必要となりました。

今日的視点から、その他定款の修正箇所を検討しており、

(NEATR)

- (継続) アウトリーチワークショップ
各警察署、各消防署、各市町
- (未定) 2024年度コマンドシステム演習
令和6年度福井県原子力防災訓練に合わせる

機関紙をより読まれるものとするため、今回機関紙アンケート(無記名)を実施します。

ご回答をお願いするとともに、あわせてご意見もお願いい

NEATRのK・S・A (知識・技能・態度)

=アトモス フォー ピース(その1)=

「鉄腕アトム」や「鉄人28号」というアニメをご存知のことと思う。今、世界中で愛される「日本アニメ」の原型がここにあったとあって良いだろう。どちらも1956年(昭和31年)に、アニメでなく「マンガ」として発表された。

これらは、もともと「夢のエネルギー・原子力」によって動くロボットであり、どちらも悪と戦う正義感あふれる内容となっている。この夢のエネルギーとは何であろうか？

この1956年の前、1955年の12月に「原子力基本法」が国会で成立した。与野党二大政党の議員立法として、米国との濃縮ウラン供給協定(後の日米原子力協定)の批准と、原子力委員会設置法(閣法)との一体審議で、衆参あわせて3日の実質審議で可決された。

この原子力基本法がなぜできたのか、約2年後に米国の1954年原子力エネルギー法にならった、閣法の原子炉等規制法やRI規制法ができていのに、なぜ、議員立法で原子力基本法を制定したか、そこには、急ぐ理由として日本の原子力を東側陣営から引き離すこともあったと考えられる。

1954年3月1日、米軍がビキニ環礁で行った、広島・長崎原爆の約1千倍の威力をもつ水爆実験「キャッスル作戦」において、立入禁止外で漁業を行っていた第5福龍丸が実験で多量に舞い上げられた珊瑚(深さ約75m、直径2kmの範囲)のフォールアウトを浴びた事件があり、これに呼応して杉並区民の一部が、水爆禁止署名運動杉並協議会

を立ち上げ、全国的な活動を行っていた。この協議会は「ソ連の核実験はキレイ、米国のは汚い」と言っていたように完全な東側の活動を行っていた。

さらに、日本学術会議は東側の原子力平和利用に参加するため、代表団をモスクワに派遣していた。

この日本学術会議の動きについて。原子力基本法の提案者は、「日本学術会議では米国との原子力平和利用を止め、東側の平和利用に参加するという動きがあったため、非常事態として原子力基本法を成立させた」といった趣旨のことを述べていらっしやる。

いきなり原子力の平和利用や東側・西側という言葉を使った。これは、第二次世界大戦においてナチスの侵略を止めるため、同じ連合国側であったソ連に米国は武器供与を行うことで終戦させたが、東欧諸国は東側ソ連に組み込まれ、ドイツもドイツのベルリンも東西に分割支配されてしまい、また中国では共産主義政党が国を支配する状況となった。この状況に「自由」を標榜する西側米国は、核技術を民間に開放することで、主権を取り戻すため同盟国を募り自主主義陣営を構築することとした。この核技術を世界に開放することを「原子力の平和利用＝アトモス・フォー・ピース」という。

これは、1953年4月のアイゼンハワー大統領(共和党)が国連において「軍事の覆いを取り払い、平和の技術に適合させるための方法を知る人々の手に渡されなければならない」とし、「国連の下に国際的な原子力機関を設立する」ことを提案し、「特に電力の乏しい地域に電力を供給することが原子力機関の目的の一つになる」と演説したことを契機とする。(続く)

チャレンジ "K"

次の記載で間違っているものはどれでしょうか

- ① 原子力は夢のエネルギーとよばれたことがある
- ② 原子力基本法案は議員立法で国会に提出された
- ③ 日本は西側の原子力平和利用のグループに入った
- ④ 原子力は核武器を拡散するために利用されている
- ⑤ 国際原子力機関は電力供給を目的の一つとしている

前回の正解は③です。詳しくはURL“<http://neatr-org.jp/>”で

地域住民のための原子力緊急時援助 (NEATR)
機関誌「ウイズ ハート」第23号

発行日 2024年6月21日 (金)
発行者 認定特定非営利活動法人 ワネッツ
住所 福井県小浜市四谷町 9-22
電話 0770-64-5929
責任者 岩崎 良人
電子メール wanets@neatr-org.jp
購読料 無料